

H 2 8 年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金
(慢性の痛み政策研究事業)
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究
分担研究報告書

学際的痛みセンターにおける Public Relations の重要性に関する予備的研究

研究分担者 北原 雅樹 東京慈恵会医科大学附属病院ペインクリニック 診療部長

研究要旨

学際的痛みセンターは慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステムとして極めて重要で、臨床・教育・研究・Public Relations (PR) の4つの重要な機能を持っている。しかし、日本ではPRの捉え方が他の先進諸外国と異なり、特に医療分野ではPRへの取り組みが大きく遅れている。第9回日本運動器疼痛学会に関連させてPublic Relationsを計画的に展開した場合、どの程度の効果が出るかを実施・調査した。その結果、適切なPublic Relationsを実施することによって、慢性の痛み診療・教育の分野でも大きな社会的影響をおよぼせる可能性が明らかとなった。

A . 研究目的

慢性の痛み診療・教育の基盤として、学際的痛みセンターの設立が極めて重要となる。しかし、本邦では、学際的痛みセンターの機能のうちの臨床面(複数の医療専門職種がチーム医療によって重症の慢性痛を診療する)だけが注目される傾向にある。しかし、本来の学際的痛みセンターの機能は、臨床・教育・研究・Public Relationsの4つの重要な機能を持っている。日本では一般的に広報(PR)とは「組織/個人がパブリックに働きかけることによって、パブリックの意見や行動を変え、組織/個人の意見・思想・立場・視点を理解させる/広めることを目的にした活動のこと。」と捉えられているが、ここではその原義である「組織とそのパブリックの間に、双方の利益をめざして、双方向のコミュニケーション(two-way communication)を維持するすべての活動。前述の日本で一般的に意味される組織 publicのコミュニケーションフローと

並行し、public 組織のフローを確保し、パブリックとのコミュニケーションを通じて、組織の意見や行動“も”修正/順応することを含む」ものである。

Public Relationsは医療分野でも極めて重要であるはずだが、本邦では医療分野でPublic Relationsが重要視されることはきわめてまれであり、医療機関の機能の一つとして認識されることはほとんどない。

今回、研究分担者が第9回日本運動器疼痛学会会長を拝命したことを機会に、慢性の痛み診療・教育についての広報活動の具体的方法とその効果について予備的研究を行うこととした。

B . 研究方法

2016年11月26日、27日の両日で行われる第9回日本運動器疼痛学会を中心的題材として慢性痛に対するPublic Relationsを様々な手段を用いて計画的にできるだけ多方面から

最大限に行う。具体的には：

- 個人的：分担研究者の個人的なつながりを利用し、主にメールによって慢性痛診療の重要性と、第9回日本運動器疼痛学会への参加を呼びかけた。
- 関連企業：第9回日本運動器疼痛学会への協賛企業をできるだけ増やすとともに、協賛各企業を通じた広報活動によって、慢性痛診療の重要性と、第9回日本運動器疼痛学会への参加を呼びかけた。
- インターネット：第9回日本運動器疼痛学会のホームページを開設し、また SNS (Facebook) にも第9回日本運動器疼痛学会関連ページを開設した。それらのページで、学会の内容、目的を明らかにするとともに、慢性痛診療の重要性に関する話題を逐次提供し、慢性痛診療の重要性と、第9回日本運動器疼痛学会への参加を呼びかけた。さらに SNS の有料広告システムを用いて、第9回日本運動器疼痛学会中の注目イベントについて広報した。
- マスコミュニケーション：新聞、雑誌、ラジオ、テレビなどの取材には積極的に応じ、慢性痛診療の重要性について広報に努めた。
効果の判定法は極めて難しいが、SNS への訪問数と、第9回日本運動器疼痛学会参加者数をアウトカムとした。
(倫理面への配慮)
公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会の「新・倫理綱領」に準じた活動を行うように最大限の注意を払った。

C . 研究結果

メールによる個人的なアプローチはのべ約 200 通であった。またマスコミュニケーション

ンへは、新聞(地方紙)掲載1回、雑誌掲載1回、ラジオ出演1回、テレビ出演4回を行った。SNS(Facebook)へは最大で9,000ビュー/週の反響をえた。SNS 有料広告では、8,100円を使用して1回の広告を14日間掲載し、その結果として5,360人が広告を見て、294人がSNS上で何らかのアクションを起こした。これらの結果、第9回日本運動器疼痛学会への参加者総数は745名で、日本運動器疼痛学会年次総会の中で過去最高を記録しただけでなく、学会当日の日本運動器疼痛学会会員総数660名よりも参加者数は多かった。

D . 考察

Public Relations (PR) の日本語訳とされている「広報」は一般的には、組織/個人 パブリックへの一方通行へのイメージが強く、必ずしも好意的な印象をとまなわない。しかし、日本以外の先進国では、Public Relations とは組織/個人とパブリックとの間の双方向のコミュニケーションを意味し、それによって、PRの主体である組織/個人の意見や行動がパブリックからのフィードバックにより影響を受けることもある。一方、学際的痛みセンターは、ある一定の地域における痛み診療の中心となる医療施設のことであり、本来の意味のPRが、学際的痛みセンターの活動の基本的な要素の一つであるという認識を持つことは極めて重要である。

日本では医療全体においてPRへの関心が低く、特に医療者側が主体となって積極的なPRを行うことは今までほとんどなかった。今回、第9回日本運動器疼痛学会の開催に当たり、計画的かつ多方面から慢性痛診療の重要性と第9回日本運動器疼痛学会への参加をPRし、大きな成果をえることができた。

しかし、一方では様々な問題点が明らかとなった。まず、日本では初めての研究であり、

先行研究もほとんどなかったため、どのような方法論でかつどのようなアウトカムを目標とすればよいかが不明であった。結局、数値的にわかりやすいものとして第9回日本運動器疼痛学会参加者数と、SNSの有料広告に対してはアクション数をアウトカムにしたが、それが最適であったかどうかはさらに検討が必要である。また、第9回日本運動器疼痛学会参加者数についても、参加者がどのPRルートに接したのか、またそれがどのような重要性を持っていたかについて、データの収集・分析を行うべきであった。

しかしながら、慢性の痛み診療・教育の基盤となる学際的痛みセンターシステムの設立を視野に入れた場合、PRは極めて重要な要素であり、予備的研究としては一定の成果が得られたと思われる。

E. 結論

慢性の痛み診療・教育の基盤である学際的痛みセンターの重要な機能である Public Relations についての予備的研究を行った。適切なPublic Relationsを実施することによって、慢性の痛み診療・教育の分野でも大きな社会的影響をおよぼせる可能性が明らかとなった。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 濱口孝幸, 北原雅樹. 保存療法 慢性腰痛治療におけるブロック療法の立ち位置. *Borne Joint Nerve* 6(4);767-774:2016.
- 北原雅樹. 耳鼻咽喉科疾患とペインクリニック. 耳鼻咽喉科展望

59(5);262-268:2016.

- 北原雅樹. 難治性肩こりへの対処 症例をまじえて. *Orthopaedics* 29(9);75-81:2016.
- 恩田優子, 小島圭子, 北原雅樹. ワルファリンによる抗凝固療法中にPT-INRが短縮しプレガバリンの関与が疑われた症例. *臨床麻酔* 40(9);1307-1308:2016.
- 恩田 優子, 北原雅樹. 急性腰痛. *診断と治療* 104(11);1413-1417:2016.
- 篠原 仁, 濱口 孝幸, 北原雅樹. 脊髄くも膜下麻酔後の下肢痛に筋筋膜痛症候群の関与が考えられた1症例. *日本ペインクリニック学会誌* 23(4);525-528:2016.

2. 学会発表

- 北原雅樹. 慢性痛対策の歴史 賢者は歴史に学ぶ 第21回ペインリハビリテーション学会 名古屋 2016年10月
- 濱口孝幸, 平林万紀彦, 恩田優子, 北原雅樹. バルプロ酸の長期服用が痛みの不快感を悪化させ休職を強いられた1例 日本ペインクリニック学会第50回大会 横浜 2016年7月
- 平子雪乃, 恩田 優子, 筒居 直美, 中楚 友一朗, 北原 雅樹. 家族関係への介入がADLおよび心理状態の改善につながった抜歯後遷延痛症例 第9回日本運動器疼痛学会 東京 2016年11月
- 恩田優子, 富永陽一, 濱口孝幸, 平林 万紀彦, 北原雅樹. 抗不安薬・睡眠薬治療の漸減で疼痛が軽減した症例慢性疼痛治療における抗不安薬・睡眠薬使用を考える 日本ペインクリニック学会第50回大会 横浜 2016年7月

- 5) 渡部真紀, 北村 俊平, 濱口 孝幸,
石塚 文江, 富永 陽介, 小島 圭子,
北原 雅樹. 通院を自己中断した患者
の背景調査 第9回日本運動器疼痛学
会 東京 2016年11月
- 6) 北原雅樹. 我々はどこから来てどこ
へ行くのか 第9回日本運動器疼痛学
会 東京 2016年11月
- 7) 筒井直美, 北原 雅樹, 平子 雪乃,
長尾 邦彦. 運動療法と心理療法によ
り慢性頸部痛が改善し復職に至った
一例 第9回日本運動器疼痛学会 東京
2016年11月
- 8) 富永 陽介, 小島 圭子, 北原 雅樹.
当院における学際的痛み治療の実情
治療の傾向と対策 日本ペインクリ
ニック学会第50回大会 横浜 2016年7
月
- 9) 北原雅樹. 非特異的腰痛の中樞神経
機能 仮託病名としての筋筋膜性疼痛
日本ペインクリニック学会第50回大
会 横浜 2016年7月

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得
特になし
2. 実用新案登録
特になし
3. その他
特になし